

平成30年度
望ましい学校づくり基本方針保護者説明会 意見・質疑
【西指宿中学校区】

【8月27日（月） 池田小学校区（池田校区公民館）】

質問） 国の適正規模の基準（12～18学級）を、そのまま市に当てはめようとしているのか。

それとも市の現状をみて決めたのか。適正規模の「12学級以上」にこだわる理由は何か。

回答） 平成22年に大学教授なども交えた検討委員会で策定した「指宿市望ましい学校環境整備計画」の中で、市の望ましいと考える基準を定めた。

質問） 統合しても開聞地域は1学年1学級のみである。指宿地域は池田小、今和泉小だけでなく、魚見小も1学級だが、どう思っているのか。

回答） 川尻小は複式学級がある過小規模校である。開聞小も児童数が減ってきているというのがある。魚見小は1クラス規模ではあるが、児童数が減少傾向にない。

質問） 12学級以上の適正規模を目指すのであれば、魚見小も2学級以上にするとなぜ言わないのか。1学級を認めるのであれば、市の適正規模を6学級にすればいいのではないか。

回答） 魚見小は再編しない、池田小は再編すると言っているわけではない。

意見） 池田校区では、統合するという噂が広まってから、人の流出が止まらない。一度「決まっていない」と言ってほしい。再編は、地域住民が主体になって決めていくものだと思う。1学級40人は、先生方も限界があると思う。西指宿中は小規模校できめ細やかな授業がされているので、現状を踏まえて、柔軟な考えの中でやっていく気はないのか。

回答） 住民や保護者の意見を伺いながら、方向性を決めていこうと考えている。

質問） 適正規模に人数を合わせることが、子どもたちにとって一番いいことなのか疑問である。池田小も西指宿中もとてもいい学校なので、学校再編したときに素直さや礼儀正しさが無くならないか不安。

池田小は、地域の方々と繋がりを持ちながら活動しているので、学校統廃合の問題は、地域と離しては考えられない。学校再編の話が出てきてから、地域おこしを行っている。地域が動くきっかけになったという点はよかったと感じている。今後、状況は変化していくと思うので、丁寧に対話を進めていけたらと思う。

回答） 最近、他の地域でも地域活性化の取組が新聞などに取り上げられており、私たちとしても、とても有難い。教育委員会の望ましい学校規模があるが、地域の方の意見を聞きながらやらないといけないと考えている。

質問） 説明であった「発表するだけが発表の場ではない」というのは、池田小にとってのデメリットなのか。池田小は発表する場がたくさんあり、人間形成にとって、とてもよい環境だと思っている。他校の児童と一緒にいる中でも小さい学校の子どもたちは進んで発表するし、発表している児童の声を聞こうとする。小さい学校のデメリットだけを言わないでほしい。

回答) 教育委員会としては、「望ましい学校規模の中で、いろいろな意見に触れることは大事だ」ということを伝えたかった。前に出て発表することも大事だと思っているので、決して否定しているわけではない。

質問) 魚見小や今和泉小から不安の声は上がっていないのか。

回答) 今和泉小学校区では中学校のことを不安に思っており、教科担任制や部活動の面から、中学校から優先して考えるべきではないかとの声も上がっている。魚見小からはあまり不安の声は上がっていない。

質問) 個々で起こっている部活動の問題をどのように考えているか。部活動で学ぶことが多々あると思っているが、現在、複数の学校で合同チームを組んでいる部活動もあり、合同練習のノウハウもなく、送迎なども苦労している部分がある。

回答) 中学校での部活動の存在は非常に大きいと思っている。今の問題は、部活動離れだと感じている。自分の個性を伸ばすという点では、選択肢が多いほうがいい部分もある。しかし、限られた選択肢の中で選択してやること、一つのチームが組めなくて他の学校と合同で活動するというのも、将来的にプラスになるかもしれない。そこに与えられた数や種類、地域の特性などがあるので、それらを大事にしていきたいと思う。

【8月28日（火） 今和泉小学校区（今和泉校区公民館）】

質問) 小中一貫教育は、ぜひ進めてほしい。

西指宿中は、小規模ですごくいい面もあるが、課題も出てきているので、まずは中学校の再編から取り組む必要があると思う。中学校の枠組みが決まった段階で、小学校の再編を考えていく進め方がいいのではないかな。

回答) 今年度から、各小学校区に「望ましい学校づくり調整会議」を設置している。調整会議は、校長先生、小中学生と幼児の保護者、地域代表の方の7名で構成している。今回いただく意見も調整会議で協議していきたい。

昔と比べると、子どもたちの成長が2年くらい早くなっていると言われている。ちょうど中学校に上がる時期に心の揺れ動く時期が重なり、中学校に上がったときに不登校になったり、問題行動を起こしたりすることが全国的に問題となっている。その問題を解消しようと、9年間を見通した教育目標を立て、小学校から中学校への段差をなくし、スムーズな教育をしていくのが小中一貫教育である。本市では、2020年度には完全実施する予定である。できれば施設一体型が望ましいが、お金も時間もかかるので、今は施設分離型の小中一貫教育を目指している。

質問) 以前、南さつま市の坊津学園に視察研修に行った。そこでは地域における学校の役割を話しており、とても印象的だった。

小規模校は、人間関係は密であるが、その分多様性がなかなか主張できなかったり、少数派の意見としてみんなに認めてもらえなかったりする。やはり、人数というのは必

要だと思っている。いろいろな子どもたちがいる中で、自分も楽しく、周りも楽しく育っていくのがいいのかなと思う。

回答) 坊津学園は、私たちも何度か視察研修に行っている。コミュニティ・スクールということで、例えば、地域の方が生け花をしてくださっている。

規模が小さくなると、男女の比率が偏ることもある。聞いた話では、ある学級に男子が1人で、低学年の頃までは男女一緒に遊んでいたが、高学年になると、校長先生と一緒に遊んであげていたということもあったようだ。

質問) 西指宿中に今和泉小と池田小を集めて小中一貫校にはできないか。

回答) 施設面では、教室数が足りない。階段の高さが違う。小プールや遊具も必要になる。

また、新しい学校となると、10年位かかり、お金も何十億とかかる。一度学校を造ると、50～60年は使うので、長期的な計画を立てなければならない。

西指宿中学校区で小中一貫校にするとしても、1学年1学級規模にしかならないので、現時点で1学年1学級規模の小中一貫校をつくることは考えていない。坊津学園は他の学校と離れた地域だったので、小中一貫校にせざるを得なかったのかなと思う。

質問) 子どもがまだ保育園児のため、なかなか小学校のイメージが湧きにくい。坊津学園等の先進地の情報を教えていただければイメージが湧くと思う。

回答) 今後小学校に上がっていく保護者ということで、とても関係してくると思う。今のうちに話をさせていただいて、将来的な学校がどうあるべきなのか考えていただきたい。

質問) 学校規模の適正化が必要だと考えている。子どもたちは切磋琢磨して伸びていくと思っている。少ない人数の中では、子どもたちの中で順位が決まってしまう、この子には勝てないという気持ちがあるから頑張ろうとしないし、頑張れないのではないか。

回答) 小さな学校では、顔見知りになれて仲良くなれるのは大きなメリットだが、人間関係が固定化されてしまうというデメリットもある。学校に配置される先生の数は、学級数に応じて配置されるので、学級数が多ければ多いほど加配ということで多く配置され、少人数学習や習熟度別授業ができるようになる。

小規模校の先生も、子どもたちのために一生懸命頑張っている。同じように、規模の大きな学校の先生も児童が多くても一生懸命やっている。子どもたちからすると、今よりも人数が増えると、選択肢が広がっていき、今よりも更にその子の良さが広がると考えている。